

天二每也 (収入)

一、九千井

アオン十稟町の収入

一、一萬三千五百井

トメト一也十稟町ハ十五畝稟町

計二萬二千五百井

略于二井五十仙

(支出)

一、一萬一千三百五十井

一、二千四百井

一、三千井

計一萬六千七百五十井

差引て五千三百五十井

ふニ 至三千九百井 研部自傳

一、五百井 畠具清毛塔神

計九千一百井

差引て九千二百井

但し亦一回の投給了、後一回也ナリ

故に此年折込井全々廿四収事ナ由ナリ

支折はる

400  
2254  
-----  
9000

初期の投給は亦事ナ投明  
アオン十稟町の収入

トメト一の収入

先便に申上りした由も申し開始に申すまゝに申す申す

は是れ申す要ではすまじから取寄せたいあてです

因にサリリスを~~寄~~ 差上りしたまはる皆新しい

シスターへまじくと詰り込めて置かすまいた 芥い世由に

トモ地付借出書に記してあるものは其由に陰

と事い句端をはずすまい シスターの内なるもの

またて或い近所の人か借りに行て見せぬらあるかも

知れまじか おーマンの人かゆす 知てみる筈なと思ひ

オヤ 取寄し飛送るに運てせらる

マネン君に頼て 札を 綴後ウ のルビータス

直運て一柄の修繕を 取うつして 世々に荷物車

一カ借り取り積めて世々に致し 致しませ

トカ 鉄道局への 文附を は 致しませ

又マネン君の行きまゝに申す 申す 同様に申して

呉れる程 シスター スカウト さん に あ なた が け る

知と致したいあてです

別ん書面の却大納と云 ま ませ ん かの申の味は使

ちて下さい 破 壊 し たら 修 繕 し て 下 さい ツ ス カ ー は

は を 申 下 さい オ ー ケ ー と ス タ ー ス カ ウ ト

さくのは返る て 送 て セ ン ト ル ト リ ヨ ン が て 出 来 て

たります。リリースの不足をたぬのは誰か使用してたるめて  
まぬいさスカーフスカットすか又ありまか先てたるぬ  
まゆから催促して区隔やてせよおねえとる。ス  
カットすにけ文障を致します。

マネスエン天かりスを持て直に倉庫社へ行て表号  
と引みせて不足をあたた也申出に転て  
はせります。

可成全部揃へたのです。トローちても見附らぬ  
ものはいも得ませぬ。盗まぬたをてまぬま

すから。一口早揃へたよてあたたにパー  
をオロー。たてろ。マネスエン天が積むて出

北るおねえ。其専ら何程でも先方(マネスエン天)の中出を

文を分りまおひを致します。

はの専ら自ら十一月末から十一月始め迄の使用たい

めいづか。とんらに備へ共一月中にお

とね積りしやか出まぬは。昭年の計書出に大障

定らを生らます。

私の計画が根本より崩れて進退は身まる  
あつた  
猿堂に常任心が動搖志落付たり  
子~~我~~もまはけませんが  
て在ります 許上  
一は早車利のはまのかるへ帰りたいことを  
から念~~我~~して在ります





まうしる

せの仕了

お近所でおて行て便用をなさぬか大分

あると思ひます 謝水の持て行いたうは 思細り

ホーシンのか画巻もなる筈ですから 返すめめは

止を待す あなた取て 搬送屋へ運び下さい

また水も また行衛りわらぬものか 念りに多いな

びきたらう びら公さんへ 言わて スカウトさんにお

巻をして 世らちて 下さい

どうもても わらぬものいしを得まさんから 忘れす

故 大凡ど 取り上げて 積て 下さい

おまゝは 是の形を 年々又い 十一月 初め迄 ほしいのです

かましい どうか わるませんか 一月一杯に 是の形

いと 甚重の上 大不結果に ちりますか 是の形 万本

あなたのため 是れ 乾切るは 行動て 一にも 早く 来

ます 程は 是月折を 預ります

は 化るに しいムも ちやくに かさる ちん あなたなりッ

ラッカーも 使して 頂くの ちすから 経費の ちいなる

は 百も ちいすから 表を 思ひ ちいん 是れ 清い 水

い ちいすから 是れ ちいん 是れ 清い 水

由を 目につく ぬかぬ 樽の ちいん 甚重の上 大分 損を ますから

積は 女の 甚重 用の ちいん ちいん ちいん 是れ 念に ませんか

ら しいムも ちいすから 表を 思ひ ちいん 是れ 清い 水

またと思ひの暗い

暗い

雨の降るを待つて  
まじらから

終夜泣きまじら地人林邊  
まじらにわさき

何れを思ひあはれ  
まじらにわさき

すしを電化の  
まじらにわさき

ゆらぎの  
まじらにわさき

あやう  
まじらにわさき

も共解の  
まじらにわさき

亦一動杯  
まじらにわさき

後を  
まじらにわさき

さしを  
まじらにわさき

重ねたる  
まじらにわさき

前便  
まじらにわさき

私の  
まじらにわさき

(一)ア  
まじらにわさき

かま  
まじらにわさき

可成  
まじらにわさき

何れ  
まじらにわさき

是れ  
まじらにわさき

是の依信る由い

あるは流山に止る程の  
ことなるるるりりり  
事も仕事に對し莫大の  
枯渴せしめては、  
にたる流や四野も  
く事んるるる何とも  
くは氣かりき  
男二の婦ありき  
死にまゝ一多  
取ら何年  
下すい  
さい

事も仕事に對し莫大の  
枯渴せしめては、  
にたる流や四野も  
く事んるるる何とも  
くは氣かりき  
男二の婦ありき  
死にまゝ一多  
取ら何年  
下すい  
さい

事も仕事に對し莫大の  
枯渴せしめては、  
にたる流や四野も  
く事んるるる何とも  
くは氣かりき  
男二の婦ありき  
死にまゝ一多  
取ら何年  
下すい  
さい

事も仕事に對し莫大の  
枯渴せしめては、  
にたる流や四野も  
く事んるるる何とも  
くは氣かりき  
男二の婦ありき  
死にまゝ一多  
取ら何年  
下すい  
さい

事も仕事に對し莫大の  
枯渴せしめては、  
にたる流や四野も  
く事んるるる何とも  
くは氣かりき  
男二の婦ありき  
死にまゝ一多  
取ら何年  
下すい  
さい

事も仕事に對し莫大の  
枯渴せしめては、  
にたる流や四野も  
く事んるるる何とも  
くは氣かりき  
男二の婦ありき  
死にまゝ一多  
取ら何年  
下すい  
さい

事も仕事に對し莫大の  
枯渴せしめては、  
にたる流や四野も  
く事んるるる何とも  
くは氣かりき  
男二の婦ありき  
死にまゝ一多  
取ら何年  
下すい  
さい

トトトー三十度

四月廿三日 水引あり

四月廿四日 水引あり

四月廿五日 水引あり

四月廿六日 水引あり

四月廿七日 水引あり

四月廿八日 水引あり

四月廿九日 水引あり

四月三十日 水引あり

五月一日 水引あり

五月二日 水引あり

五月三日 水引あり

五月四日 水引あり

五月五日 水引あり

五月六日 水引あり

五月七日 水引あり

五月八日 水引あり

五月九日 水引あり

五月十日 水引あり

五月十一日 水引あり

五月十二日 水引あり

五月十三日 水引あり

五月十四日 水引あり

660  
500  
1160  
500  
64160

1425  
1425  
9750  
9750  
1000  
64160

1180  
1180  
1180  
1180  
1180  
1180

1200  
1200  
1200  
1200  
1200  
1200

1215  
1215  
1215  
1215  
1215  
1215

1240  
1240  
1240  
1240  
1240  
1240

1260  
1260  
1260  
1260  
1260  
1260

1280  
1280  
1280  
1280  
1280  
1280

1300  
1300  
1300  
1300  
1300  
1300

1320  
1320  
1320  
1320  
1320  
1320

1340  
1340  
1340  
1340  
1340  
1340

1360  
1360  
1360  
1360  
1360  
1360

1380  
1380  
1380  
1380  
1380  
1380

1400  
1400  
1400  
1400  
1400  
1400







耕作せしむべき  
(是れは農作に必要なり)

(一) アニオンの予定地を約三千莫町直に人形カシを70

ヘクターする(此の地は既に在り)

田のさへりりくすのーアチテックを上げせむ

(二) 二月の始めに水を入て、水を二回位かす 三月の

始めにササメをぬす

十莫町のニモ止にするカチのニ十莫町よりさか

は行して柳沢の上

(三) 五月の始めに水を張るとして、よくらたをカサキ水も

トクトーへ回す

(四) トクトーに枯付田圃を彼の地へかきも乃至、ミルビンス

へ注文する

(五) 地ふらー田圃も月報

(六) トクトーに枯付田圃を治す アニオン田圃を治す

トクトーと其の間の調節をせよ 水は氷は確ん充

ふんばるといふ(自家の)

(七) 其他の全地の鈴サネを除去して皆ハレー位より

四角く或は太根の、柳沢の上

此の心が 安らひなく 又老ほる 自らの  
心 静に なること 是れ 上り決 たいと思  
ひます

此の心を 安らひなく 又老ほる 自らの  
心 静に なること 是れ 上り決 たいと思  
ひます

又 此の心を 安らひなく 又老ほる 自らの  
心 静に なること 是れ 上り決 たいと思  
ひます

一 つ 此の心を 安らひなく 又老ほる 自らの  
心 静に なること 是れ 上り決 たいと思  
ひます

二 此の心を 安らひなく 又老ほる 自らの  
心 静に なること 是れ 上り決 たいと思  
ひます

三 此の心を 安らひなく 又老ほる 自らの  
心 静に なること 是れ 上り決 たいと思  
ひます

四 此の心を 安らひなく 又老ほる 自らの  
心 静に なること 是れ 上り決 たいと思  
ひます

五 此の心を 安らひなく 又老ほる 自らの  
心 静に なること 是れ 上り決 たいと思  
ひます

六 此の心を 安らひなく 又老ほる 自らの  
心 静に なること 是れ 上り決 たいと思  
ひます

七 此の心を 安らひなく 又老ほる 自らの  
心 静に なること 是れ 上り決 たいと思  
ひます

のこ  
ヒインス 辛ちとまの  
及収獲じと収獲物價格と同等と見る故計算を  
要めせす一品種代といひぬるに違わるとも千五百丹  
のゆほし充ち支辨せらるゝと思ふ 計上を出  
故に仔細

(収入)

一金 壹万八千丹

一川 壹万丹

合計 二万八千丹

アオン 一万二千サツク  
の足積 二十莫  
トメト 一莫  
サツク 一万五千仙

収支 引 九千五百丹

由 三千六百丹 軒高 引

九百丹

畠 引 清もう 其ら

計 四千五百丹

差引 金 五千一百丹

紙 巻



お可

其の...は...  
其の...は...  
其の...は...

か...  
か...  
か...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...



色引き... 世に... 沈み...  
色引き... 世に... 沈み...  
色引き... 世に... 沈み...

命... 命... 命...  
命... 命... 命...  
命... 命... 命...

命... 命... 命...  
命... 命... 命...  
命... 命... 命...

命... 命... 命...  
命... 命... 命...  
命... 命... 命...

命... 命... 命...  
命... 命... 命...  
命... 命... 命...

命... 命... 命...  
命... 命... 命...  
命... 命... 命...

命... 命... 命...  
命... 命... 命...  
命... 命... 命...

命... 命... 命...  
命... 命... 命...  
命... 命... 命...

命... 命... 命...  
命... 命... 命...  
命... 命... 命...

命... 命... 命...  
命... 命... 命...  
命... 命... 命...

命... 命... 命...  
命... 命... 命...  
命... 命... 命...



旅の室にすまふちて  
はを(る)すぬに格別は毛ゆは、  
るよ下さい  
一はか平ゆの葉は、  
神おん祈てたります



